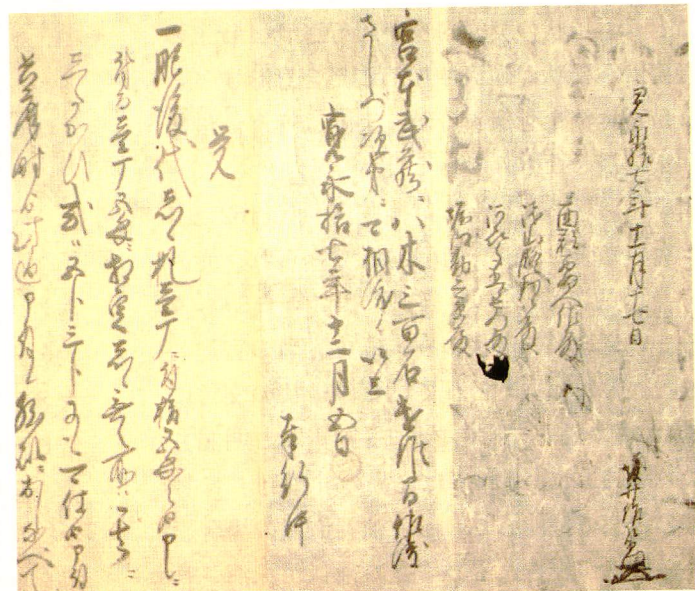


東光原

熊本大学附属図書館報

Kumamoto University Library Bulletin, Vol.27, No.1, Jan. 2002

- 大名の借金証文
- 中世阿蘇社の世界
- 「水俣病とメチル水銀中毒」をテーマに講演と展示
- 学習・研究支援環境の改善に努力しています
- オンラインレファレンスサービス開始
- 重点配分経費から基盤的経費へ



永青文庫蔵から：宮本武蔵への辞令（中央部）
寛永17(1640)年藩主裁可文書。米300石を支給するもの。
日付けの下に藩主忠利のローマ字印が押されています。

大名の借金証文

吉村 豊雄

江戸時代の大名家の台所事情をみると、極端に言えば、いつの時期をみても窮乏状態にある。慢性的な財政赤字、累積する借財など、「財政危機」といえば、江戸のはじめからそういう状態にある。問題は、こうした財政状態のもとでも大名は借金している、借金が可能であったという事実である。しかも無担保である。

写真1は、「袖判借状」といわれる借銀証文である。江戸時代、西日本は銀本位の経済であるので、借金のことを「借銀」と称する。「袖判」とは文書の右端(袖)に署された書判(花押)、サインである。この袖判借状は、豊前小倉藩主細川忠利が、京都の半井寿庵から銀60貫を借用したものである。借状の作成主体は、この借銀が家中用であるため、家中を統率する位置にある家老の長岡(松井)式部小輔・有吉頼母佐であるが、家老の名前だけでは借銀できない。貸主側が求めたのは大名(藩主)のサインである。大名のサインが借状の内容を保証したのである。

写真の袖判借状の場合、書判(花押)の下に忠利の印判が捺されている。いわば二重の袖判が借状の内容を保証していた。ところで、写真の袖判は墨で何本かの斜線が入れられ、抹消されている。このことは、借状の契約内容が履行され、貸主の半井寿庵から借状が返済されたことを意味する。順調な借銀返済を想像するが、実際は違う。借銀で借銀を返済したものである。

細川家における袖判借状は藩主忠利代(1621~1641)、次の光尚代(1641~1649)までみられ、光尚代には全国的にも珍しい「裏判借状」(写真2)もみられる。家老連名の借状の裏に藩主光尚の官途名(肥後守)と書判が据えられている。借状の文言に「肥後守入用ニ付而裏判在之也」(写真3)と明記されているように、「裏判」は従来の「袖判」に替わるものとして機能している。袖判借状の場合、貸主から借状が戻されると藩主の袖判が抹消されたが、裏判借状の場合、藩主の裏判は消されず、借状作成主体の家老の書判が墨で抹消されている。

そこには、借銀調達主体としての家老の存在が

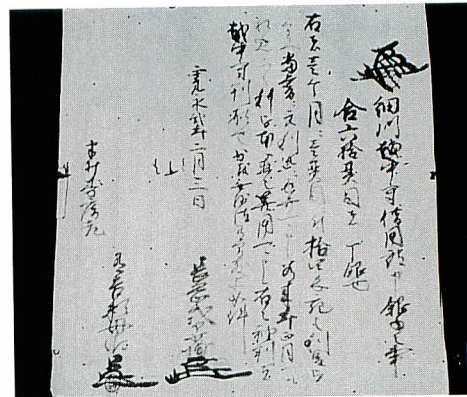


写真1

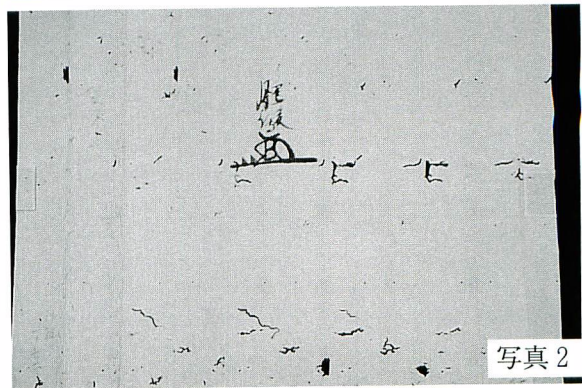


写真2

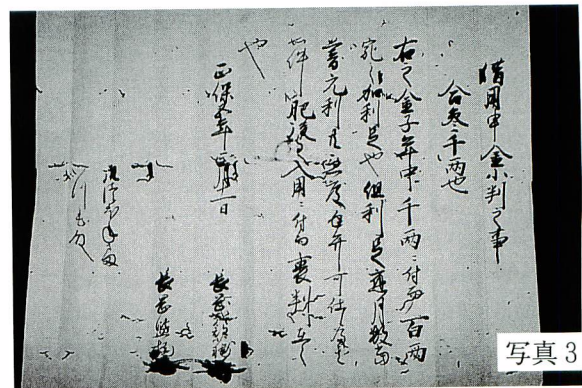


写真3

※写真は、永青文庫所蔵細川家文書
(熊本大学附属図書館架蔵)による。

ある。大名家の借銀が、大名個人名義の借銀から、大名家全体の借銀＝藩債としての性格をつよめ、大名家を代表して、大名家の老(おとな)＝家老が借り受ける方式をとるようになる。幕藩体制の市場・金融関係が未整備な段階において、京都の小金持ちから大名のサイン(袖判・裏判)で小口の借銀を集めえたが、大坂が「天下の台所」として成長すると、大名家の年貢米を担保として要求し、ここに袖判借状はその役割を終える。

(よしむら とよお 文学部教授)

第18回熊本大学附属図書館貴重資料展・講演会より

中世阿蘇社の世界

春 田 直 紀

阿蘇神社の宮司家に伝来した阿蘇家文書の大部分は戦後熊本大学の所蔵となり、1987年には国の重要文化財に指定された。阿蘇家文書は、南北朝期の九州の政治史を語るうえでもっとも重要な史料群として注目されてきたが、他方当文書が中世帳簿の宝庫である点も見逃すことのできない特色といえる。では、阿蘇家に伝来した多種多様な帳簿群は何を目的にして作成されたのだろうか。それは第1に神が鎮座する神殿を造営・維持するためであり、第2に神を祭る儀式を行うため、第3に造営や祭礼に必要な負担を郷村から確保するためであった。この3つの事業がそれぞれの働きを十分に発揮したところに、中世の阿蘇社が目指す理想的な世界があったはずだが、果たして現実はどうであったか。

今回は中世阿蘇社の全体像を示すために、「阿蘇社縁起絵巻断簡写」、「阿蘇社造営記録」、「阿蘇社四季神事諸役次第」、「阿蘇社領郷々注文」など造営・神事・社領郷村に関する基本的な帳簿を選んで展示した。11月2日の講演で話した要点は次のとおりである。中世の阿蘇社は社領内に郷や村といった行政単位を設け、社の存続にかかわる造営や神事に必要な物資や労働力は、阿蘇谷を中心とする身近な領内の郷村から確保する体制を志向していた。そのために採用されたのが阿蘇社独自の公田制である。各郷村には年貢田とは別に阿蘇社の造営・神事の経費負担を課す公田が設定され、公田の知行者である武家給人や社家が阿蘇社に奉

仕する体制が14世紀には確立している。しかし、こうした阿蘇の神々を支える仕組みもトップダウン方式のままでは十分に機能しなかったのであり、郷村支配を担当した中司は「現実の姿」の把握と「あるべき姿」の確認とを交互に行いながら、社領経営を進めていったことを指摘した。

なお、今回の資料展と講演の準備においては阿蘇家文書の原本調査を実施し、多くの成果を得ることができた。とりわけ帳簿には追筆や訂正が多く、原本でないと検証できない情報が少なくない。今後史料調査が本格化し、研究が進展することを希望している。

(はるた なおき 教育学部助教授)



貴重資料展

講演会



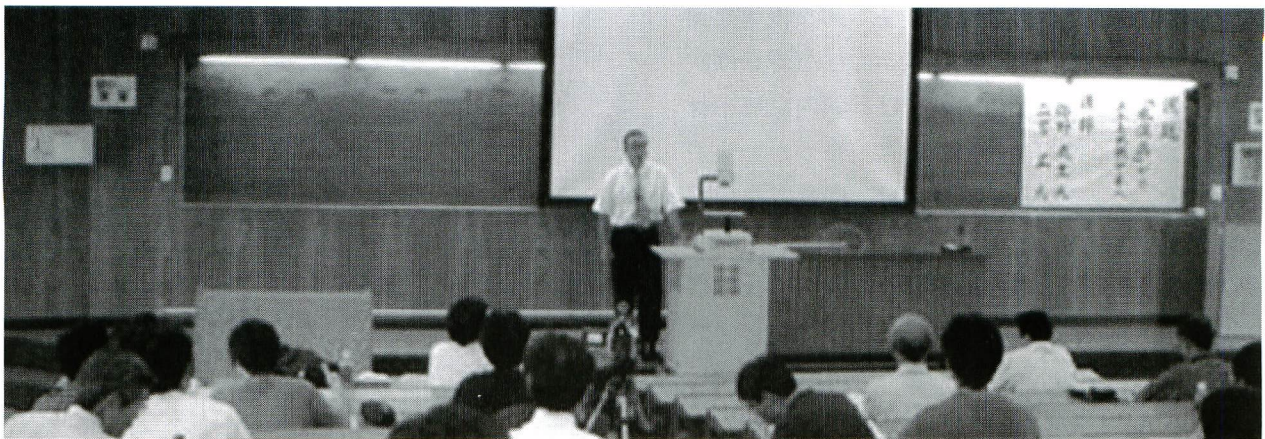
「水俣病とメチル水銀中毒」をテーマに講演と展示

附属図書館では、熊本大学が他に誇ることができ、個性的で貴重な学術研究資料を収集整理し、データベース化することなどを目的として「学術資料調査研究推進室（以下、推進室という）」を平成11年10月館内に設置しました。推進室では現在、水俣病研究に関する資料収集をはじめ3つのテーマで活動を展開しております。このほど、その成果を公開する初めての事業として「水俣病とメチル水銀中毒」に関する講演会とパネル展示会を開催しました。

10月6日（土）13時から工学部229講義室で開催された講演会では、推進室の室員である医学部解剖学教室の浴野教授と二宮助手が講演、不知火海の水銀値や沿岸住民の診察結果などをメチル水銀汚染のない他の地区と比較した結果など最新の研究成果が報告され、水俣病医学や行政施策の問題点等が明らかにされました。講演後も一般市民、学生など約80名の参加者との熱心な質疑応答が続

けられました。

同日から10月21日までの16日間（休日も含む）附属図書館内において開催された展示会では、不知火海の汚染状況やメチル水銀が人体に与える影響、海外の汚染防止政策などを示したパネルとともに、水銀（実物）、脳の模型、推進室で収集した資料、過去の新聞記事見出しをデジタル化したデータベースなどの電子化資料も展示されました。入場総数は313名で、アンケートによると約半数が学生、遠く静岡県、兵庫県などからの来場もあり、次回の開催を期待するとの声が多くありました。また、この企画は、水俣市において開催された第6回「地球環境汚染物質としての水銀に関する国際会議」に合わせて実施したこともあって、講演会、展示会の双方ともマスコミの注目を集め、報道各社からの取材や問い合わせが数多くありました。



学習・研究支援環境の改善に努力しています

-図書館の現状と課題-

山下 谷 治

はじめに

大学図書館は、資料を収集、整理、保存して利用者の利用に供することによって大学における学習や研究を支援する基盤的な施設であります。図書館ではこのような機能の改善に常に努力しています。ここでは大学図書館の重要な機能である学習と研究の支援について当館の現状と課題を再確認してみます。

学習支援について

学生の学習を支援する図書館としては、施設、資料、運用面の環境をよくしていくことが必要です。

施設面では、中央館は昭和47年度に建設されて以来増改築が一度もされておらず、学生数の大幅な増加に対応できない状況となっています。閲覧座席の不足に対しては廊下やホールに長机を置き、会議室も開放するなどの対処をしていますが、試験期には館内を一巡しても座席がなくあきらめて帰る学生がたくさんいます。医学部分館も地区の再開発の関係で書庫が取り壊され、その結果閲覧室は極度に狭くなり、書庫は旧実験室を代用しているような状態です。使い勝手は悪く、閲覧机や椅子も古くみじめな状況にあります。

資料面では、図書館に本はたくさんあるが新しい本はない、読みたい本はないというのが多くの学生の感想です。幸い平成13年度は重点配分経費2,000万円によって学生のための基本的な図書をたくさん購入することができました。貸出数が前年度に比べ30%も増えていますが、これは新しい本をたくさん揃えられたことが大きな要因であると考えています。しかし、例年の予算では学生用の図書はほんの少ししか購入することができません。学生が納める入学金や授業料の数パーセント分を学生用の図書購入費に充てることできれば、学生にとって魅力ある図書館になるでしょう。

運用面では、平成12年度から開館時間を1時

間延長して21時までとしています。平成14年度からはさらに1時間延長して22時までとする予定です。夏休み期間中は土・日曜日、祝日も開館しています。

研究支援について

研究者の研究を支援する機能は学習支援機能とならんで重要なものです。

平成13年度は約3,000タイトルの電子ジャーナルとWeb of Science、Lexis-Nexis、JSTORなどのデータベースが利用できる環境を整備することができました。これも重点配分経費によって実現したものです。電子ジャーナルなどは全学の研究者が等しく利用できるものであり、研究を進める上で重要なものです。図書館に予算の配分を受けて利用できる環境を整備しますが、図書館のためのものではなく全学の研究者のためのものです。今年度限りで終わるのではなく、継続されることが必要です。

研究用の図書や雑誌を図書館に整備することも重要です。現在は図書館の収容力が限界にあって、これ以上収容することができません。全蔵書の7割は研究室に分散して保管されており、学内に資料があっても利用しにくい状況です。収容力を増強して多くの図書や雑誌を図書館に収容し、研究者が利用しやすい環境を整えることが必要です。

新しい機能について

大学図書館に求められている新しい機能として、インターネットを介して内外の情報資源にアクセスすることや資料を電子化して発信するというような電子図書館的機能があります。また、生涯学習支援の一環として一般市民への学術資料の提供や施設開放など地域との連携を強化することも求められています。当館の場合、どちらについても十分な対応ができているとは言えないのが現状です。

改善方策について

図書館では、ときどき利用者へのアンケートを実施しています。最近行ったものは、外国雑誌と電子ジャーナルについて、一般市民の利用満足度、外部者によるサービスの品質の調査などがあります。これらに寄せられた声は図書館に対する評価と受け止めるとともに要望にはできる限り応え改善するようにしています。

また、上に記しました課題を改善するためには、次のような予算措置と施設面の整備が必要と考えます。

まず予算面では、電子ジャーナルやデータベースが継続利用できる環境を維持するための経費が経常化されること。そして、学生のための基本的な図書が毎年ある程度整備できる経費が経常化されること。

次に施設面では、学習・研究環境を改善し、総合情報環構想の一翼を担うために、さらに地域へのサービスを促進するために、さしあたっては館内の改修と設備の更新、根本的には中央館の増改築と医学部分館の建築です。

おわりに

平成14年3月には3年余りお世話になりました熊本大学を定年により去ることになりますが、関係の皆様のご理解とご協力を得て、本学図書館が本学の教育研究を支援する中心的な施設としてますます充実発展することを切望しています。

（やました たにじ 事務部長）

図書館サービスに関するアンケート調査を実施

昨年11月、教官及び学生の方々を対象にアンケート調査「図書館サービスの品質調査」を実施しました。

この調査は、図書館情報大学永田研究室と共同で行ったもので、Royal Holloway University of London（英国）、Oulu University（フィンランド）、立命館大学及び熊本大学の4大学を対象として実施されたものです。本学では、全教官、学生はサービス対象の図書館ごとに無作為に抽出し、質問票を送付する方法を採用しました。アンケートの回収状況は以下のとおりです。回答の結果等については、研究グループの分析を待ってお知らせする予定です。

ご多忙のところご協力頂きました教官、学生の皆様に心からお礼を申し上げます。

○ 回収状況

	配布数	回答数	回答率
学 生			
中央館	337	111	32.9 %
医学部分館	307	99	32.2
薬学部分館	287	113	39.4
医短図書室	283	94	33.2
（学生計）	1,214	417	34.3
教 官	979	439	44.8

オンラインレファレンスサービス開始

ー ホームページからレファレンス質問が申し込めるようになりました ー

■はじめに：

図書館ではホームページからレファレンス質問を受け付けるオンラインレファレンスサービスを試行的に開始しました。「レファレンス」とは図書館がもつ各種の情報を使って、利用者の皆様が資料や情報を探すのをお手伝いする「質問・回答サービス」です。お気軽にご利用ください。図書館ホームページトップメニューの中の「レファレンス」よりリンクしています。

<http://ref.lib.kumamoto-u.ac.jp/q&a/>

■サービスの特徴：

図書館の所蔵する資料や情報その他を使っての回答が基本となります。本学に所属される方の質問を優先しますが、学内外に限らず一般市民の方も含めてどなたでもご利用いただけます。また回答は電子メールで行います。その他細かいことはオンラインレファレンスサービスのページをご覧ください。

■利用方法：

ここでは以下、簡単に利用方法をご紹介します。

1. 図書館ホームページへアクセスする。
2. トップメニューの中よりレファレンスを選択する
(図1)。

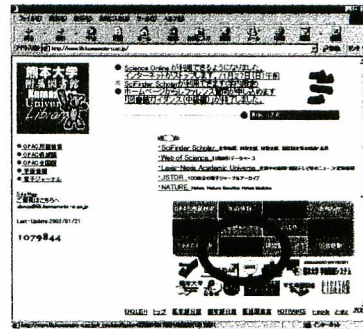


図1 図書館ホームページ

3. オンラインレファレンスページが表示されます
(図2)。

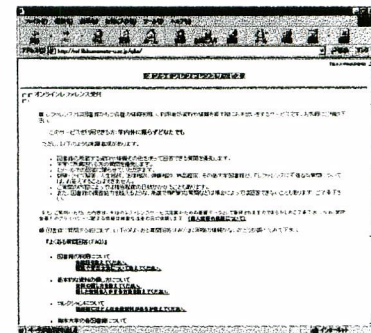


図2 オンラインレファレンスページ

4. 図書館に質問する前にまず、『よくある質問回答 (FAQ)』に同様の情報がないかどうか調べてみてください。『よくある質問回答 (FAQ)』には、利用案内に関することや過去の質問のアーカイブ (図3) などがあります。

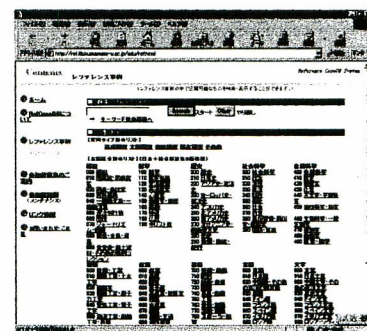


図3 レファレンスアーカイブ

5. 満足する答えがない場合は、オンラインレファレンスページ下部のレファレンス質問画面へ進んでください（図4）。このときレファレンス質問画面には、氏名やメールアドレスなどの個人的な情報を暗号化して送受信する「SSLモード」と、「通常モード」の2種類をご用意しています。お手元の機器の環境等に応じて選択してください。（図書館ではセキュリティの保たれるSSLモードを推奨します）※1

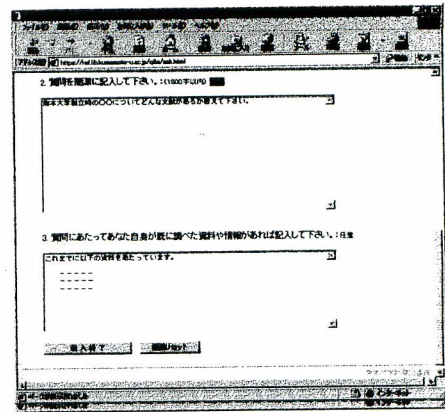


図4 レファレンス質問画面へ

6. 連絡先や質問内容その他、必要事項をご記入ください。ここでは特に電子メールアドレスは間違わないように入力してください。また携帯電話のメールには対応していませんので、パソコンなど通常の電子メールアドレスをご指定ください。記入項目には、必須項目と選択項目があります。選択項目については記入するかどうかは任意です。記入が終わったら、画面下部の「記入終了」ボタンを押してください。画面をリセットしたい場合は「画面リセット」ボタンを押してください（図5）。

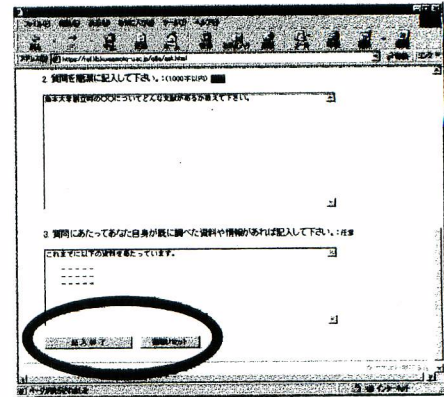


図5 レファレンス質問画面

7. 一旦、確認画面が表示されます（図6）。よければ「OK」ボタンを押してください。この時点でもし記入まちがいがあれば「やりなおす」をクリックしてください。図5の記入画面にもどりますので、修正後、再度「記入終了」ボタンを押してください。※2

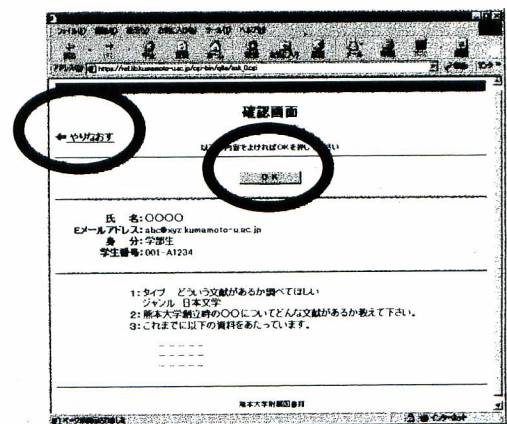


図6 確認画面

8. 「OK」 ボタンを押したらしばらくそのままお待ちください。受付完了のメッセージが表示されます。同時に、システムの受付番号が表示されますので、メモなどをして控えておいてください。その後図書館へはこの受付番号を使ってご照会ください（図7）。

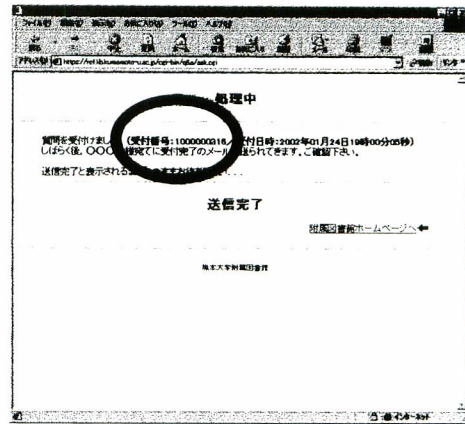


図7 完了画面

9. 記入項目に問題がなければ、しばらくするとご指定いただいた電子メールアドレスに受付確認メールが届きます※3（図8）。

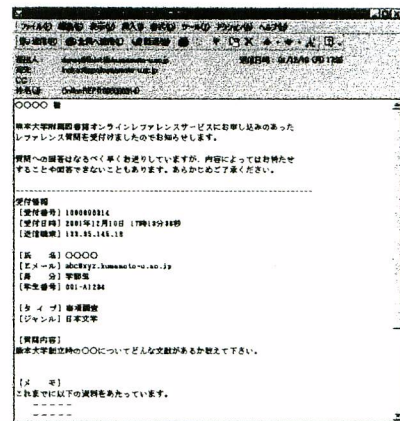


図8 確認メール

10. 受け付けられた質問は図書館で調査し、電子メールにて回答いたします。ご質問の内容によって回答までの時間や日数は変わります。また、図書館の調査能力を超えるような、高度で専門的な質問などは場合によって回答できないこともあります。その場合でも図書館で適切な専門機関や専門家が分かる場合はご紹介いたします。

- ※1 SSLモードでは、接続時だけブラウザ固有の確認画面が表示されますが、画面の指示に従い先に進むと中に入ることができます
- ※2 ブラウザの「もどる」ボタンでも結構です。またブラウザの一時ファイル（キャッシュ）の設定が0になっていると、もどったときにそれまで記入しておいたデータが消えてしまうので、0以外の適当な大きさに設定しておいてください。
- ※3 心当たりのない受付確認メールが到着した場合は図書館へご連絡ください。また、申込のキャンセルなどは、受付番号をお知らせください。

■その他：

またご質問いただいた内容は今後のレファレンスへフィードバックするため、基礎データとして九州地区国立大学図書館協議会で共同構築するレファレンス事例データベースへ蓄積されます。これにより、調査・回答サービスのクオリティの向上が期待されます。（もちろん個人情報等は最大限保護されます。ご安心ください。）

図書館では、今回のオンラインレファレンスサービスに限らず、今後ホームページを利用したレファレンス関連サービスを充実させていく予定です。どうぞご期待ください。

（電子サービス係）

本学教官寄贈図書(平成13年10月～12月)

★ASPECT熊大コーナーに配架しています★

- ◆多田望助教授(法学部)
国際民事証拠共助法の研究/多田望著.--吹田：大阪大学出版会，2000.2.
中央館・教官著書コーナー：329.87/Ta,16
- ◆千葉昂教授(衝撃・極限環境研究センター)
Impact engineering and application: proceedings of the 4th international symposium on impact engineering 16-18 July 2001, Kumamoto, Japan / edited by Akira Chiba, Shinji Tanimura, Kazuyuki Hokamoto.
-- Amsterdam: Elsevier Science, 2001.
中央館・教官著書コーナー：501.3/I,48/(1)
中央館・教官著書コーナー：501.3/I,48/(2)
- ◆大久保雅行講師(教育学部非常勤講師)
日蓮誕生：聖なる物語の構造分析 / 大久保雅行著.
-- 東京：山喜房佛書林，2001
中央館・教官著書コーナー：188.9/O,54
- 宗教の科学と実践：宗教的新文化創出理論序説 / 大久保雅行著. -- 福岡：葦書房，1982.1
中央館・教官著書コーナー：188.98/O,54

最近の図書館の動き(平成13年10月～12月)

- 図書館ガイダンス -中級編- 開催
春の新生ガイダンスに続く、秋の“中級編”ガイダンスを11/26～12/14に実施しました。今年度も“雑誌論文を探す”“新聞記事を探す”“所蔵を調べる”という3つのコースを用意しました。期間中、3つのコースを合計22回開催し、144名の受講者がありました。
“中級編”ガイダンスの統計を、図書館ホームページ上で公開しています。
- 平成13年度貴重資料展・公開講演会 開催
附属図書館では、11/2(金)から11/4(日)の3日間、貴重資料展を開催しました。
18回目を迎えたこの資料展は、今年度から“貴重資料展”と名称を変更し、「中世阿蘇社の世界」をテーマに、図書館所蔵の国・重要文化財指定「阿蘇家文書」より阿蘇社に関わる文書・帳簿類を中心に展示しました。また、11/2(金)には、教育学部助教授・春田直紀氏による講演会「中世阿蘇社における理想と現実」を開催し、平日にも関わらず定員80名を超える方々が聴講されました。
図書館ホームページ“DIGITAL LIBRARY”で出品目録等を公開しています。
- 学生用基本図書整備充実費による新着図書 閲覧・貸出開始
東光原前号で報告しました、平成13年度研究教育基盤校費(重点配分経費)“学生用基本図書整備充実費”によって購入された新着図書の閲覧・貸出を開始しました。中央館では、新着図書コーナーを設け、皆様の利用をお待ちしています。
図書の貸出状況は新着図書が配架され始めた10月以降、昨年度同時期に比べ、大幅に増加しています。
- “紺綬褒章”伝達式 一田中千束氏一
昭和55年から4回にわたり、図書館へ3,355冊(総額2,000万円以上)の外国図書を寄贈された田中千束氏に、紺綬褒章が授与されました。紺綬褒章伝達式は11/16(金)に本学学長室で執り行われました。
- 水俣病とメチル水銀中毒 -公演と展示-
水俣市において開かれた第6回「地球環境汚染物質としての水銀に関する国際会議」に合わせて、熊本大学でも講演会と展示会を開催しました。そのうち展示会は、中央館を会場として、10/6(土)から10/21(日)まで開催しました。詳細は今号の特集記事をご覧ください。

委員会報告(平成13年10月～12月)

附属図書館運営委員会

■平成13年度第3回(11月8日)

[協議事項]

- (1)平成15年度概算要求
- (2)電子的サービス推進専門委員会報告
- (3)中央館の開館時間延長
- (4)その他
 - ・文部科学省配当「外国雑誌購入費」による購入雑誌の見直し

[報告事項]

- (1)重点配分経費による学生図書整備状況
- (2)第18回附属図書館貴重資料展及び公開講演会実施報告
- (3)水俣病関係資料展示会及び講演会の実施結果報告
- (4)総合科目「情報メディアとネットワークの活用」の実施結果報告
- (5)図書館サービス品質調査の実施
- (6)未返却図書の督促
- (7)閲覧座席の増設
- (8)田中千束氏紺綬褒章受賞
- (9)評議会での電子ジャーナル及びデータベースの紹介
- (10)その他
 - ・秋の図書館ガイダンス
 - ・年末・年始の開館について
 - ・「パイディア10号」への原稿執筆依頼

附属図書館専門委員会

■平成13年度第3回電子的サービス推進専門委員会(10月24日)

[協議事項]

- (1)事業の進捗状況
- (2)重複雑誌の調整案
- (3)Nature及びその姉妹誌
- (4)CA on CD 及びMedline
- (5)パソコン配備

医学部分館図書委員会

■平成13年度第2回(10月1日)

[協議事項]

- (1)2002年の外国雑誌購読(案)について
- (2)学生用図書について
- (3)重点予算(200万円)について
- (3)24時間開館システムについて

■平成13年度第3回(11月13日)

[協議事項]

- (1)平成13年度第3回附属図書館運営委員会(中央館)の報告
 - A. 重点配分経費による整備状況
 - B. 医学部における学生図書整備状況
- (2)熊本大学附属図書館サービス品質調査
- (3)貸出図書の延滞状況
- (4)奥窪文庫図書購入費

日誌(平成13年10月～12月)

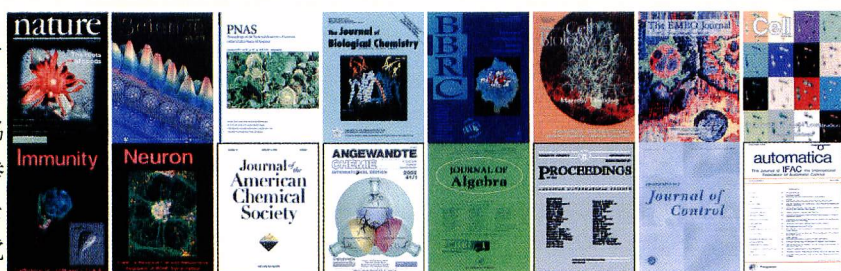
- | | | | |
|----------|-------------------------------|-------------|----------------------------|
| 10.1 | 第2回医学部分館図書委員会 | 11.16 | 田中千束氏紺綬褒章伝達式 |
| 10.6 | 講演会:「水俣病」からメチル水銀中毒へ | 11.20-21 | 外国雑誌購読「重複調整会議」 |
| 10.6-21 | 展示会:水俣病とメチル水銀中毒 | 11.26-12.14 | 図書館ガイダンス 中級編 |
| 10.10-11 | 桜山中学校職場体験学習 | 11.28-29 | 第14回国立大学図書館協議会シンポジウム(京都大学) |
| 10.10-12 | 目録システム地域講習会(宮崎大学) | 12.12-13 | 化学系院生ガイダンス |
| 10.24 | 第3回電子的サービス推進専門委員会 | 12.13 | 日本薬学図書館協議会九州地区会議(福岡大学) |
| 11.2-4 | 平成13年度貴重資料展及び公開講演会 | 12.17 | 図書館業務用電子計算機システム仕様策定委員会 |
| 11.4-18 | 国立大学図書館協議会海外派遣-アメリカ合衆国(中尾康朗) | 12.27-1.6 | 年末年始休館:中央館 |
| 11.5 | キャンパスクリーンデー | 12.29-1.6 | 年末年始休館:医学部分館・薬学部分館 |
| 11.8 | 平成13年度第3回附属図書館運営委員会 | | |
| 11.12 | 事務局との意見交換会 | | |
| 11.13 | 第3回医学部分館図書委員会 | | |
| 11.14-15 | 平成13年度九州地区国立大学附属図書館事務(部・課)長会議 | | |

重点配分経費から基盤的経費へ

平成13年度の学内予算の研究教育基盤校費（重点配分経費）によって、約3,000タイトルの外国雑誌の電子ジャーナルや広領域をカバーする大規模データベースを導入しました。NatureやScienceなどが発行と同時に利用できるなど世界の学術研究機関の情報環境に近付くことができました。また、学生用図書として、学生が在学中に必要とする最新の基本書約4,000冊を購入しました。貸出冊数が例年の同時期に比べて約30%も上昇しました。

◆電子ジャーナル

コアジャーナルを優先的に整備し、また全国の大学等の協力体制に積極的に参加しながら世界的な総合学術出版社の電子ジャーナルを導入しました。



◆データベース

全学的に利用できる世界的なデータベースを導入しました。



◆重複雑誌調整

複数の部局間で重複購入している雑誌について「冊子1部+電子ジャーナル」を目ざして関係部局及び図書館とで



調整しました。

重要な専門雑誌の電子ジャーナルやデータベースの全学利用が可能になりました。

◆閲覧用パソコン

電子情報へのアクセス環境の全学的なバランスを是正するため人文系学部と図書館に28台配備しました。



◆学生用図書

利用実績をもとに利用度の多い分野の最新図書、旧版の更新等を行いました。

この重点配分経費は、学内予算の配分方式の構造改革に資することを検証するために、平成13年度に限って配分されたものです。その結果、電子的情報資料や学生用図書のように全学での共同利用性が高い資料は、従来の小さな予算単位による選択ではなく大学全体の大きな枠組みで整備することの実効性が確認できました。このような事項は大学にとって基盤的なものとして平成14年度以降も継続できるように図書館側でも努力いたします。

編集後記：当館は、歴史的な文書の所蔵では国内でも屈指の質を誇り、研究者を始め、各地の教育委員会（県史・市史編纂のため）などからの来訪者が絶えません。

昨年から今年にかけて、NHKの大河ドラマ「北条時宗」、歴史番組「その時歴史が動いた（キリシタン女性 関ヶ原合戦をゆるがす～細川ガラシャの悲劇～）」、TBSの「世界ふしぎ発見」という人気番組から立て続けに取材を受けました。

宮本武蔵をテーマにした「世界ふしぎ発見(3月9日21時～ 放映予定)」では、細川家の文書「永青文庫」所蔵の「沼田家記」を題材に、かの有名な武蔵と小次郎の「巖流島の戦い」にまつわる秘話が紹介される予定です。乞うご期待！（は）

熊本大学附属図書館報「東光原」(とうこうげん)*
27巻1号 平成14年(2002年)1月発行

発行所 熊本大学附属図書館
〒860-8555 熊本市黒髪2-40-1
TEL 096(342)2273 FAX 096(342)2210
http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/tokogen/
編集 浜崎修一、梅尾勝征、甲斐重武、
永村典子、川内野祐子、浜崎千雅

*現在の中央館の敷地一帯が、旧制第五高等学校時代東光原と称する運動場であったことに由来する。